

NST(ノンストレステスト)

Q

次回の健診で「ノンストレステスト」をすると聞きました。どんなことをして、その結果何がわかるのですか？

初めての出産を控え、もうすぐ36週目に入るところです。「次の健診の際に、ノンストレステストをします」と言われました。どのようなことを調べる検査なのか、詳しく教えてください。

A

陣痛などのストレスがない状態で分娩監視装置をつけてお腹の赤ちゃんの元気をチェックする、大切な検査です



教えてくれたのは
福田病院 理事長 福田 稠さん

ストレスのない状態で赤ちゃんが元気かどうかを調べ、お産に耐えられるかどうかを判断するひとつの方法です。

当院では妊娠経過が順調な場合は、36週以降に行います。妊娠高血圧症候群などハイリスク妊娠では、早い時期から行うこともあります。

NSTは、分娩監視装置という機械を使い、お腹に2種類のセンサーを装着します。ひとつは胎児の心拍数を測り、もうひとつはお腹の張り(子宮収縮)をキャッチするセンサーです。

分娩監視装置からは、2本の波線上のデータが出力されます。上の線は赤ちゃんの心拍数、下の線は子宮収縮を示し、真ん中には胎動が矢印で表されます。

赤ちゃんの胎動や心拍数、お母さんの子宮収縮の状態を30〜40分ほど記録

NSTとは、ノンストレステストの略で、胎児の心拍モニター検査とも言われます。陣痛などのストレスを調べる検査なのか、詳しく教えてください。

30〜40分ほど記録をとり、赤ちゃんの心拍数が正常値(110〜160)かどうか判断します。

このデータをもとに、赤ちゃんが良好な状態(well-being)かどうか判断します。

ママの「？」を募集

妊娠・出産・赤ちゃんに関する質問を募集中。産婦人科の医師に聞いてみたい内容、名前(匿名の場合はペンネームも)、年齢、住所、電話番号を書いて、〒860-8511 熊本リビング新聞社「プレママ」係 ※すべてが採用されるわけではありません。応募者の個人情報は紙面製作でのみ使用されます。

